



国が目標に掲げている「温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減」を達成し、地球温暖化対策を促進するためには、寒冷地では特に冬季に住宅で使う暖房のエネルギー使用量を抑えることが必要です。そのため、住宅への対策として、既存の住宅についてはエコリフォーム（断熱対策など）を行うこと、新築の場合はエコ住宅にすることが重要となっています。

シンポジウムでは、北海道や東北で実践している対策（政策）などの事例をもとに、今後地域（寒冷地）においてさらにエコリフォーム、エコ住宅を普及させていくための対策などについて考えていきます。

日時 2011年1月22日（土）13：30～16：40 （13：10開場）

場所 東北芸術工科大学 2階 207 講義室 （山形市上桜田 3-4-5）

プログラム

1 「北海道、東北地域の事例紹介」

参加無料

第1部 【北海道】 「北海道における民間住宅の省エネ施策について」

講師 北海道建設部住宅局建築指導課建築企画グループ主幹 倉増英樹氏

【秋田県】 「秋田での民生家庭部門における地球温暖化対策について」

講師 秋田県立大学建築環境システム学科准教授 長谷川兼一氏

第2部 【岩手県】 「岩手のエコハウス普及活動について」

講師 U t u w a P r o j e c t 長土居正弘氏

【福島県】 「エコハウス飯舘村までいな家について」

講師 までいな暮らし普及センター長 佐藤周一氏

【山形県】 「山形エコハウスについて」

講師 住まいの温暖化対策やまがた協議会代表幹事

東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科准教授 三浦秀一氏

2 「パネルディスカッション」

コーディネーター 住まいの温暖化対策やまがた協議会代表幹事

東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科准教授 三浦秀一氏

パネリスト

北海道建設部住宅局建築指導課建築企画グループ主幹 倉増英樹氏

秋田県立大学建築環境システム学科准教授 長谷川兼一氏

U t u w a P r o j e c t 長土居正弘氏

までいな暮らし普及センター長 佐藤周一氏

・事前申込が必要です。参加希望の方は、裏面にある申込書の内容を、1月20日（木）までに、FAX、メール、電話にて事務局までお知らせください。

・定員：130名 定員になり次第、締め切らせていただきます。

「山形エコハウス」見学会同時開催 10:00～16:00

*見学会への参加申込は必要ありません。

主催：住まいの温暖化対策やまがた協議会（※）、山形県建築士会山形支部

<問い合わせ先(協議会事務局)>

山形県地球温暖化防止活動推進センター(特定非営利活動法人 環境ネットやまがた)

〒990-2421 山形県山形市上桜田三丁目2-37

電話 023-679-3340 FAX 023-679-3389

E-mail eco-house@eny.jp HP <http://eny.jp/ecohouse/>

<講師等プロフィール>

倉増英樹氏 (北海道建設部住宅局建築指導課建築企画グループ主幹)

1960年北海道岩見沢市生まれ。1989年建設会社勤務を経て北海道庁入庁。
2010年4月から、北方型住宅、北海道R住宅など、北海道の民間住宅施策の推進を担う。

長谷川兼一氏 (秋田県立大学建築環境システム学科 准教授)

大阪府生まれ。1992年東北大学工学部建築学科卒業。東北大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程。1997年信州大学工学部助手。
2001年より現職。

研究活動分野は、「建築環境学、寒冷地住宅の環境設計、住宅の健康性」。

主な著書として、「住宅の環境設計データブック」(共著・日本建築学会)、「第2版コンパクト建築設計資料集成[住居]」(共著・丸善)がある。2007年に「日本建築学会奨励賞」授賞。

長土居正弘氏 (U t u w a P r o j e c t)

北海道札幌市生まれ。1971年ピーエスのグループ企業ピーエス工業(株)入社。その後、ピーエスのグループ企業である東北ピーエス株式会社 代表取締役役に就任。2004年同職辞任・退社。

暖房・冷房の専門家として約34年間活動した経験を活かし、「U t u w a P r o j e c t」(ウツワ プロジェクト)を設立。エネルギーアドバイザーとして活動開始。2010年盛岡市地球温暖化対策 地方公共団体 実行計画協議会委員。海外渡航歴20回、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、韓国、中国の暖房事情の調査研究を行っている。また、エコ・ハウスコンテストにおいて実行委員会の事務局長に就任し、2006年よりコンテストを実施している。

佐藤周一氏 (までいな暮らし普及センター長)

福島県飯館村生まれ。1972年飯館村入庁。飯館村第5次総合振興計画(2005年～)の村づくり指標「までいライフ」具現化に奮闘。2005年産業振興課商工観光係在任中、福島県内第1号となる「どぶろく特区」取得、認可村民が製造開始。2007年総務課企画係在任中、第3回日本再発見塾「ていねいに生きてみる2日間」を主催。2007-8年特養老人ホームのバイオマスエネルギーによる循環システムを構築。2009年環境省エコハウスモデル事業を担当。

2010年4月からエコハウスの普及・環境交流の推進を担う飯館村までいな暮らし普及センター長。

三浦秀一氏 (東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科准教授)

住まいの温暖化対策やまがた協議会代表幹事。兵庫県生まれ。1992年早稲田大学大学院博士課程修了、博士(工学)。建築と地域を主眼としたエネルギー計画 や地球温暖化対策の技術評価や政策に関する研究を行う。山形県がカーボンニュートラルな地域となるよう、住民や自治体とともに実践活動に取り組む。著書(共著)に「省エネ住宅とスマートライフでストップ温暖化、日本建築学会叢書4」(技報堂出版)などがある。2009年に東北芸術工科大学の竹内教授、馬場准教授らとともに著した「未来の住宅」が山形エコハウスのもととなっている。

※住まいの温暖化対策やまがた協議会は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、山形県における住宅の温暖化対策に関する普及・啓発や情報の収集・発信するため、産官学の共同により平成20年7月に設立、環境省に登録された協議会です。

構成団体：東北芸術工科大学、山形県立産業技術短期大学校、山形県建築士会、山形県建築士事務所協会、山形県建築協会、NPO法人新住協、NPO法人いいでいい住まいづくり研究会、NPO法人NPOひがしね、村山地域地球温暖化対策協議会、もがみ地球温暖化対策協議会、置賜地域地球温暖化対策協議会、庄内地域地球温暖化対策協議会、山形テレビ、アイン企画、山形県(地球温暖化対策課・建築住宅課)、山形県地球温暖化防止活動推進センター (順不同)

----- **参 加 申 込 書** -----

<申込先> FAX 023-679-3389 E-mail eco-house@eny.jp

会社・団体名			
住所			
電話		F A X	
E-mail			
参加者	氏名		役職名
	氏名		役職名
	氏名		役職名